

むつ市地域おこし協力隊活動状況報告書

むつ市長 宮下 宗一郎 殿

隊員氏名 大崎 祐暢

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2022年1月分】

1. 実施した活動の概要・状況

年が明け、ようやく冬本番といった時期のはずだが、道路に雪がなく乾いていることが多いように思えた。冬のイベントを企画しているが、雪の少なさに不安と焦りを感じる一か月であった。脇野沢ではマダラ漁のお手伝いをし、産卵を終えて棒タラが増える時期でありながらも、漁獲量に恵まれ、日々大漁であった。また、脇野沢での「真冬の鱈祭り」のお手伝いをさせていただき、たくさんの地域の方と交流することができた。

（主な活動）

◇1月8日（日） 2023年最初のマダラ漁の水揚げ

年が明けて最初の水揚げが4日の予定であったが、海の時化の影響で、8日に新年初水揚げとなった。27日以降、網を上げていないこともあり、大漁すぎるぐらいのマダラが獲れている可能性、最後の船の水揚げが終わるのが昼過ぎる可能性から、出勤してもほぼ仕事ができないと考え、8日は仕事を休みとして作業のお手伝いに向かった。

当日はたくさんのマダラが獲れており、3艘～4艘ぐらいの漁師さんの船の水揚げのお手伝いをした。その家々により、水揚げの仕方が異なっており、お手伝いをしていても楽しかった。

お手伝いのお礼にマダラをいただくことが多く、12月中は川内の近所の方や知り合いに配って歩いていたが、マダラの価値の差を関東に行った際に感じ、産卵の終わったマダラの価値をもっと上げることはできないのかと考え、1月からは自分で捌いて、流通の際に手間の省ける干し鱈を作ることにした。干し鱈を作りながら、マダラの価値を調べていくと、海外では「バカラオ」という名前で塩漬けにされたマダラを食べる習慣があることが分かった。

今後もマダラ漁がある限り、水揚げのお手伝いを重ね、地域の方々との交流を深めていきたいと考える。また、もしお礼にマダラをいただける機会があれば、干し鱈づくりを進めるとともに、今後も海外への出荷等を視野に入れ、塩漬けのものもチャレンジしていきたいと考える。お手伝いと商品開発をもって、地域に貢献できるような成果を出せるように努めていきたいと考える。



◇1月14日（土）脇野沢「真冬の鱈祭り」お手伝い

脇野沢庁舎隣の体育館にて、3年ぶりとなる「真冬の鱈祭り」が開催されることを知り、前日の準備と当日の片付けのお手伝いをした。このイベントではマダラの販売や抽選会などが行われることもあり、たくさんの地域の方々が来場し、とても賑わいのあるイベントであった。

準備や片付けに参加したことで、マダラ漁のときにお世話になっている脇野沢漁協の方々や関係者、マダラの水揚げを手伝ったことのある漁師さん関係者の方々と話をする事ができた。また、これまで関わったことのない地域の方々とも交流をすることができ、参加して良かったなと感じた。

今後、脇野沢でイベントをやるにあたって、今回のお手伝いでの経験や知り得たことはとても役立つことばかりであった。今回の経験を活かして、脇野沢の地域の方々のために催し物を開催していきたいと考えます。



◇1月15日（日） 冬の自然観察会

スパウッド近くの川内川で行われた冬の自然観察会に参加した。今回の観察対象は野鳥であった。野鳥観察会の方々と交流できる機会であるとともに、川内の魅力を知ることができる最高の機会であった。スパウッド隣の駐車場に集合し、そこから1kmほど上流に向かって歩きながら観察をした。川内川にはたくさんのカモ類やオオハクチョウがいて、オジロワシも観察できた。少し上流付近まで歩いたところで、「オオワシ」を観察することができた。名前のおり、とても大きく、遠くからでも肉眼で確認できるほど存在感のある野鳥であった。警戒心が強く、近くまで行って見たり、うまく撮影することはできなかったが、川内でオオワシに会えるとは考えていなかったため、とても良い経験をする事ができた。

今回の体験から、川内の魅力をまた一つ発見することができた。この感動を多くの人と共有できるように、ガイドになれるよう日々勉強を積み重ねていきたいと改めて感じた。



2. 翌月の活動予定

2月は冬のイベント「スノー×ライトフェス 2023 in 川内」を開催する。「雪をプラスにしたい」「子供たちの遊び場を作りたい」という考えのもと実施する。他にも4月以降の準備や、マダラの食品加工など、今後も勢いとチャレンジを継続していきたいと考える。

2月 5日 若者育成事業 成果報告会

2月18日 スノー×ライトフェス 2023 in 川内